

# 我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立上田上小学校

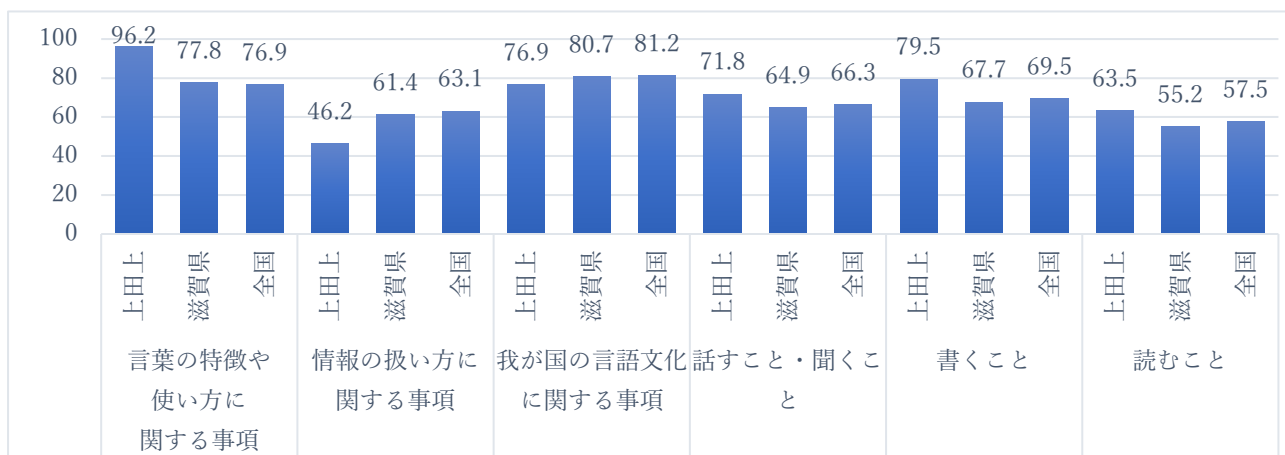
調査目的◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 【結果について】～我が校の強みと弱み、指導の充実に向けて～

国語科、算数科、理科、児童質問紙で調査が行われました。

\*本校の傾向を見るものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

【国語】 全体平均正答率(%) 本校73 大津市 66 滋賀県 65 全国 66.8



### 問題の傾向

- ・いくつかの情報を整理、選択する問題が多くあった。
- ・問題の形式がインタビューや説明文であり、また、「手ぬぐい」「ことば」など日本文化に関する題材を扱っていた。
- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討し、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る問題があった。

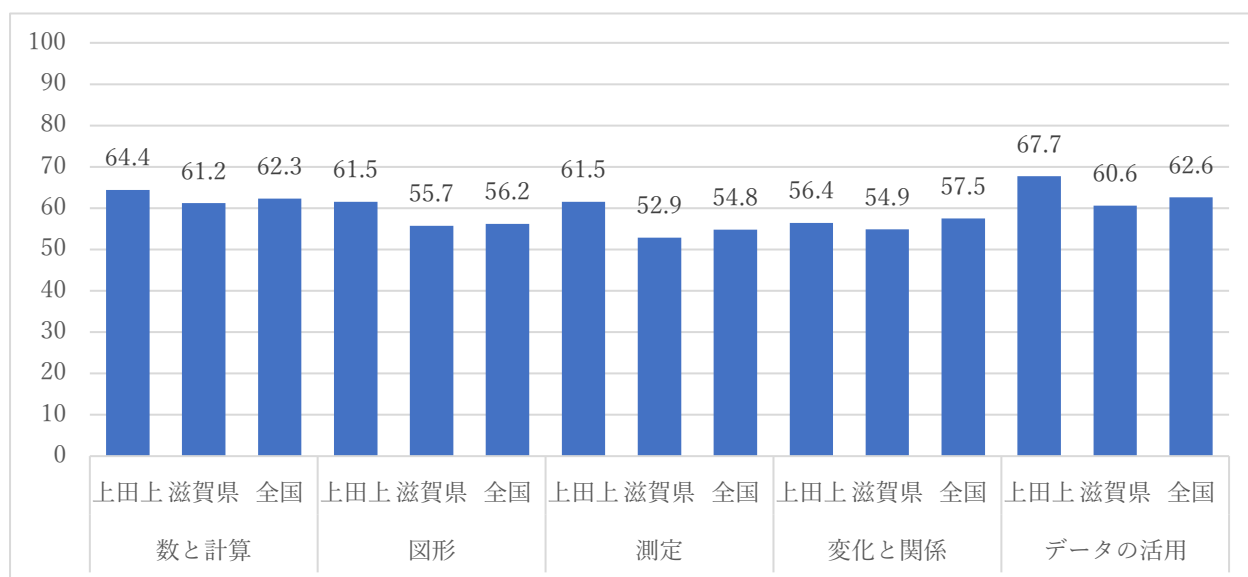
### 結果分析

- 漢字がしっかりと書けていた。(言葉の特徴や使い方に  
関する事項の正答率が高い。)
- 事実と感想、意見の関係を押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができた。(「書くこと」「読むこと」の正答率が高い。)
- △時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができなかった。
- △情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題において、正答率が低かった。

### 指導の充実に向けて

- ・さまざまな教科学習の中で、資料活用する活動を進んで取り入れるなど、情報を統合し、表現する力を育てる。
- ・自分の考えを理論的に説明する、記述する力を育てる。
- ・それぞれの資料にある語句や情報を丸や四角で囲んだり線をつないだりして、関連性を視覚化しながら読む指導を取り入れる。
- ・文に慣れ親しみ、初見の文章内容を理解する力をつけるため、朝読書や読み聞かせを積極的に行っていく。また、図書室の活用も司書の先生と連携しながら充実させていきたい。

## 【算数】 全体平均正答率(%) 本校 63 大津市 59 滋賀県 57 全国 58.0



### 問題の傾向

- ・計算問題が少なかった。
- ・問題文が長く、よく読み理解して答える問題が非常に多かった。計算より求め方を重視していた。
- ・計算しなくても解けるが、問題の意味が読み取れないと「難しい」と感じてしまう問題が数問あった。
- ・生活の中での体験が、算数と結びついていた。
- ・4, 5年生の学習内容がほとんどだった。

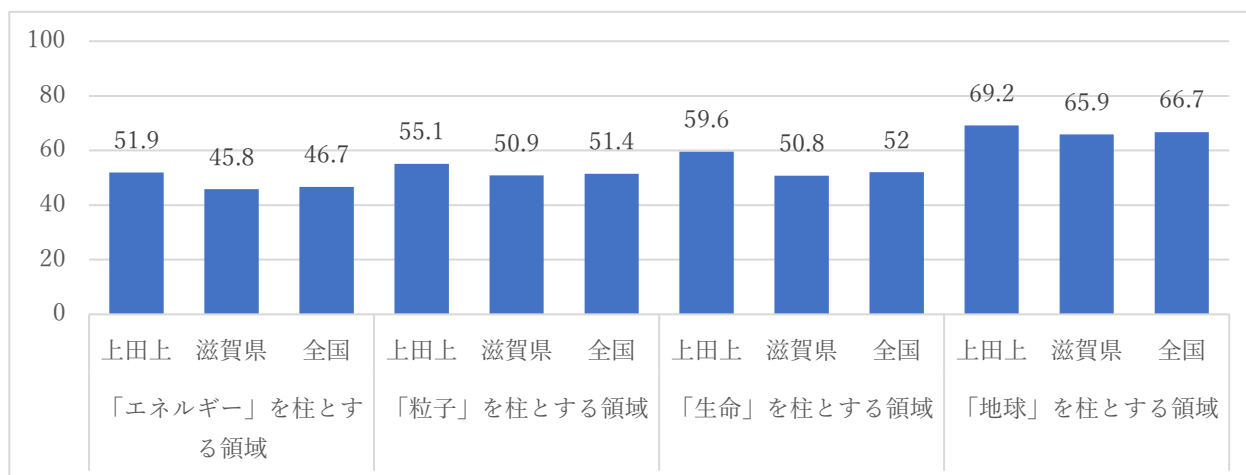
### 結果分析

- 角を構成する考え方や分数の計算については、習得している児童が多い。
- 表やグラフの読み取りにおいても定着している。
- △異分母の通分や○分の1のいくつ分という考えが定着していない。
- △割合を扱った問題や記述式に課題があった。

### 指導の充実に向けて

- ・計算問題に取り組むだけでなく、文章問題や、日常に即した問題に接する機会を積極的に増やす。
- ・「読み解く力」がついていないと解けない。どの教科の学習においても、少し長い文や資料を正しく読み解く機会を増やす。(朝読書、理科・社会科の学習等)
- ・順序立てて考える経験が必要。算数科の学習だけでなく、考えをノートに文で書く活動や、人に説明をする機会を授業で増やす。(話し合い活動)
- ・図形の学習は、想像することが難しい。視覚支援や操作的活動を取り入れる。授業で使った視覚教材を積極的に校内に掲示する。
- ・分数、小数、割合などの学習では、日常的な場面や体験的な学習と結び付けて指導する。

## 【理科】 全体平均正答率(%) 本校 62 大津市 58 滋賀県 56 全国 57.1



### 問題の傾向

- ・身の回りのことの中から理科的な意味を問う問題があった。
- ・3年「電気を通す性質」と5年「電磁石」の融合や3年「電気を通す性質」と4年「磁石につくもの」の融合した問題があった。
- ・4年「物のあたため方」の詳しい実験考察の問題があった。
- ・4, 5年生の学習内容がほとんどだった。
- ・文章量が多く、必要な情報に気づく必要がある。
- ・1つの問題で、知識や分析、思考力を問うものがある。

### 結果分析

○基礎的な知識は身につけている。

△記述式に課題がある。

△実験の結果だけに目が行く傾向があり、なぜその結果になるのか考察する力が弱い。

### 指導の充実に向けて

- ・実験の仮説や実施を丁寧に取り組み、考察させる。教師が実験をするのではなく、児童が実験を行い、結果が失敗した場合は、なぜ失敗したのか考察を行う。
- ・科学的な物作りをする。
- ・楽しんで実験をすることが大切。
- ・知識の教え込みにならないように指導する。
- ・日常生活とのかかわりに目を向けて指導する。

### 【児童質問紙】から

○生活習慣は整っており、家庭基盤があるといえる。地域のことも好き。約束を守りとても真面目。

○友人関係に満足しており、学校での人間関係は良好とみられる。

○読書や算数科の学習が好きという児童が大幅に増えた。算数科での専科教員による指導が効果をあげているのではないか。

○総合的な学習の時間での探究活動や学級会での話し合いに取り組むことができている。

△授業での ICT の活用について、学習における使用頻度が低く、プレゼンテーションする力がついていないと考えている子が多かった。自分の考えを伝えたり友達と考えを共有したり比べたりする力をつけることが大切。

△国語科や理科の内容がわからないと答えている児童が見られた。児童がわくわくする授業を仕組み、「できた」「わかった」を増やしていけるよう、授業改善を行う必要がある。